

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決策](#)

## 概要

この資料は UCCE のロガーのためのデータを削除しない大きい表の問題を解決するためにステップを記述したものです。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- UCCE
- 構造化照会言語 ( SQL )
- icmdba ツール

### 使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

## 問題

80% 以上キャパシティが達したらロガー B はデータを削除します。レジストリは 14 日だけ保存する必要があるがそれより多くを保存しますことを示します。

問題は保たれるより高い日数がある大きい表 ( エージェント イベント詳細、コール タイプ SG 間隔、RCD、RCV および TCD ) によってレジストリが 14 日間設定されるが引き起こされています。

領域によって使用される概略をチェックしているこれを icmdba から表示できます....

これは大きい表を削除すればのに使用される保存された手順がそれで競合があれば、この場合それ指示します間違ったロガー ( LoggerB の代りの LoggerA ) のデータベースを使用するためにプロセスを起こります。

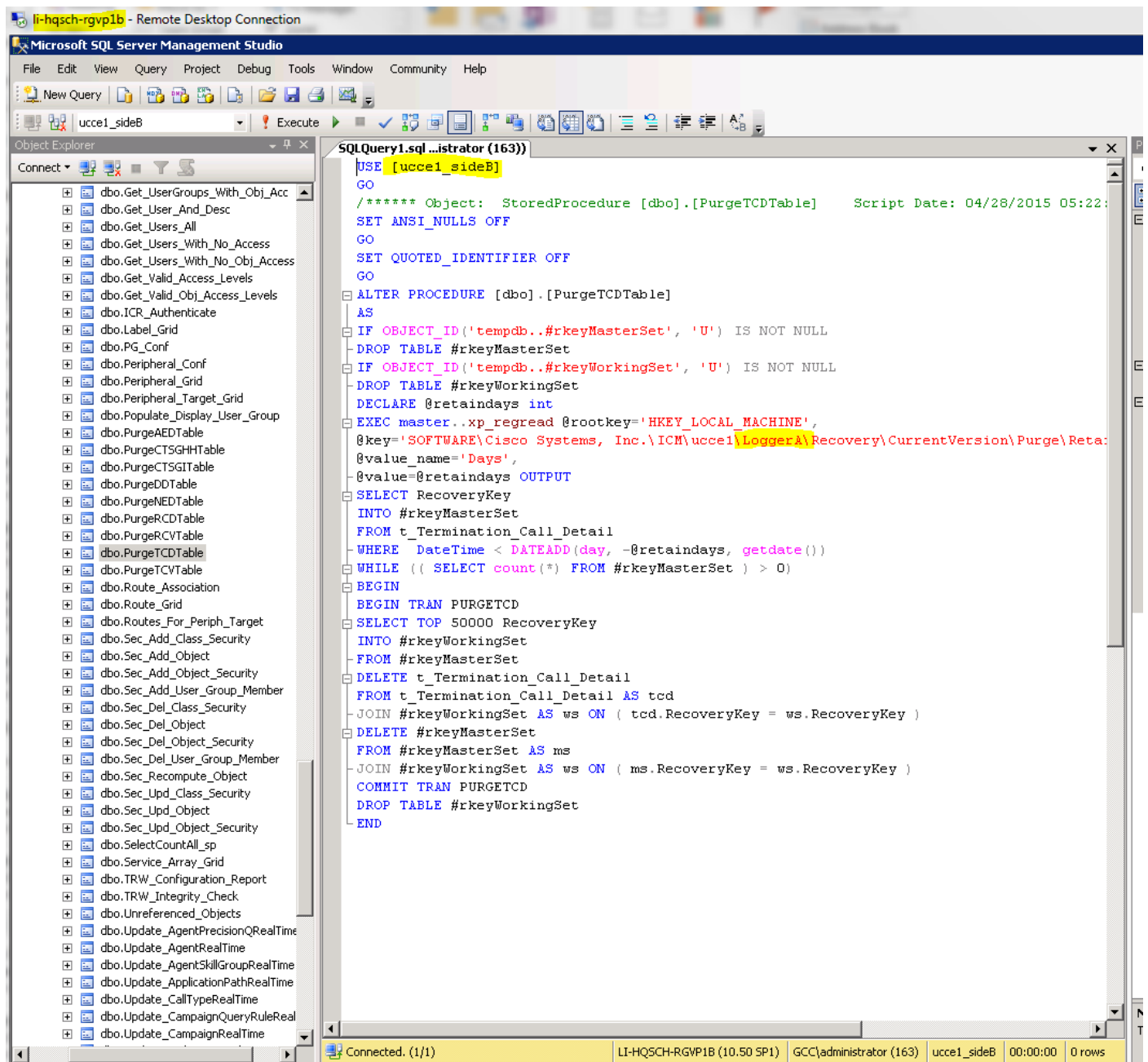
## 解決策

ステップ 1.最も古い 10 - 20 日ただ確認するためにレジストリの影響を受けた表の保持期間を、削除されます ( 1 のたぐさんのデータを削除することを避けるため行って下さい )、すなわち変更して下さい。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズ、株式会社\ ICM \ Customer\_Instance \  
LoggerX \リカバリ\ CurrentVersion \ページは\保ちます\...

ステップ 2. SQL 管理スタジオ、データベース > <instancename>\_sideB > プログラマビリティ > 保存された手順に、および影響を受ける DB 表 ( エージェント イベント詳細、コール タイプ SG 間隔、RCD、RCV および TCD )、右クリックのそれぞれのためにナビゲートし、『Modify』を選択して下さい。

ステップ 3. ( LoggerB に変更する必要がある ) LoggerA を言うかところで @key='SOFTWARE \シスコシステムズから開始する行を修正して下さい。

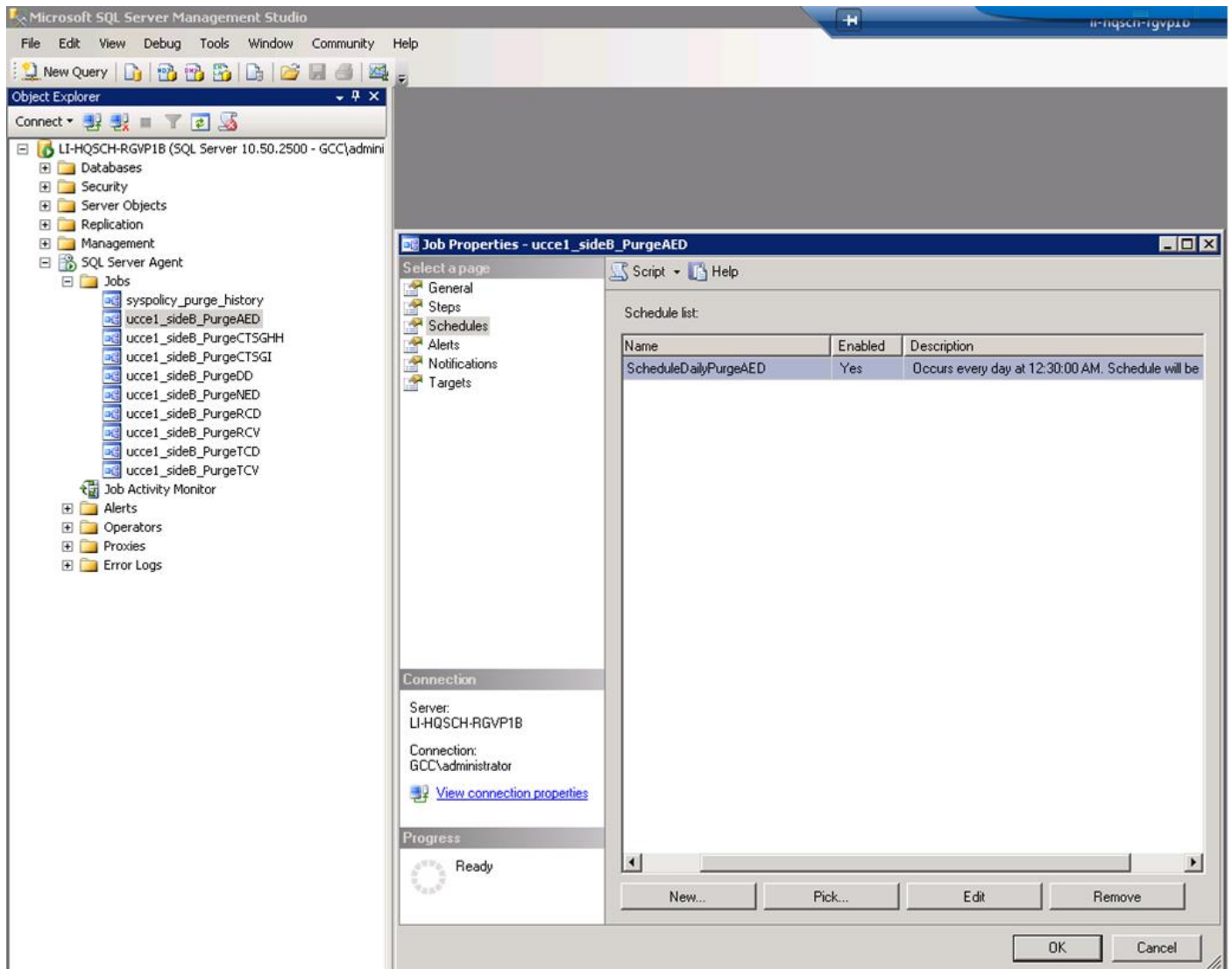


The screenshot shows the Microsoft SQL Server Management Studio interface. The Object Explorer on the left displays a list of tables in the 'ucce1\_sideB' database, including 'dbo.PurgeTCDTable'. The main window shows a SQL query titled 'SQLQuery1.sql...istrator (163)'. The query is as follows:

```
USE [ucce1_sideB]
GO
/***** Object: StoredProcedure [dbo].[PurgeTCDTable] Script Date: 04/28/2015 05:22:
SET ANSI_NULLS OFF
GO
SET QUOTED_IDENTIFIER OFF
GO
ALTER PROCEDURE [dbo].[PurgeTCDTable]
AS
IF OBJECT_ID('tempdb..#rkeyMasterSet', 'U') IS NOT NULL
-DROP TABLE #rkeyMasterSet
IF OBJECT_ID('tempdb..#rkeyWorkingSet', 'U') IS NOT NULL
-DROP TABLE #rkeyWorkingSet
DECLARE @retaindays int
EXEC master..xp_regread @rootkey='HKEY_LOCAL_MACHINE',
@key='SOFTWARE\Cisco Systems, Inc.\ICM\ucce1\LoggerA\Recovery\CurrentVersion\Purge\Retain',
@value_name='Days',
@value=@retaindays OUTPUT
SELECT RecoveryKey
INTO #rkeyMasterSet
FROM t_Termination_Call_Detail
WHERE DateTime < DATEADD(day, -@retaindays, getdate())
WHILE (( SELECT count(*) FROM #rkeyMasterSet ) > 0)
BEGIN
BEGIN TRAN PURGETCD
SELECT TOP 50000 RecoveryKey
INTO #rkeyWorkingSet
FROM #rkeyMasterSet
DELETE t_Termination_Call_Detail
FROM t_Termination_Call_Detail AS tcd
JOIN #rkeyWorkingSet AS ws ON ( tcd.RecoveryKey = ws.RecoveryKey )
DELETE #rkeyMasterSet
FROM #rkeyMasterSet AS ms
JOIN #rkeyWorkingSet AS ws ON ( ms.RecoveryKey = ws.RecoveryKey )
COMMIT TRAN PURGETCD
DROP TABLE #rkeyWorkingSet
END
```

ステップ 4 保存された手順への変更を Query メニューで保存するために、『Execute』 をクリックして下さい。

ステップ 5 それから夜 ( 12:30AM ) に起こるために大きい表のスケジュールされたページを待つことができますまたはページ ジョブを再スケジュールして下さいそうすれば先に動作します。ページ ジョブを、SQL サーバ エージェント > ジョブから、影響を受けた表を再スケジュールすることは削除する、ジョブおよびこれをダブル クリックするジョブを選択するために New ウィンドウを開きます、そしてページに起こってほしいときスケジュールへのナビゲートは、に基づいて時間を『Edit』 をクリックし、変更します。



ステップ 6 各々の影響を受けた表のための最初の最も古い 14 日のページを終了したら、それらの表の最後の 14 日を保存するまで変更するために保ちます最も古いより古いデータを削除するために日およびステップ 5 をクリアするように期間を再度ステップ 1 に従うことができます。